

真田家霊屋

真田家は、17 世紀初頭から江戸時代（1603 年～1867 年）の終わりまで、250 年近くにわたって松代を支配した一族でした。松代での真田家による支配は、上田・沼田地方の比較的強大な大名であった真田信之（1566 年～年 1658）が、徳川幕府によって松代に移された 1622 年に始まりました。そしてその同じ年、禅と仏教の寺院である長国寺が、新しい真田家の寺院として松代に建てられたのです。

長国寺

長谷寺の敷地内には、5 つの真田家の墓が作られました。この霊廟のうちの 3 つは、現在でも残っています。

長国寺の本堂の後ろには、黒漆塗りの信之の霊屋があります。この霊屋は 1660 年に建てられ、外観は金箔と、鶴などが彫られた複雑な木彫りで飾られています。扉の上の曲がった軒の下には、3 つの硬貨が 2 列に並んだ真田家の家紋があります。六文銭と呼ばれるこの絵柄は、生の世界と死の世界を分ける川を渡るための料金として必要だと信じられていたのです。また信之の霊屋の中にはより精巧で鮮やか彫刻があり、天井には一連の金箔による絵が描かれています。この信之の霊屋は国の重要文化財に指定されています。

信之の霊屋の右には、4 代目藩主である信弘（1671 年～1737 年）のために建てられた別の霊屋があります。1736 年に建てられ長野県の重要文化財に指定されているこの信弘の霊屋は、龍の絵が描かれた天井で知られています。

長国寺の本堂と信之の霊屋の間には開山堂があります。この開山堂は、もともとは 1727 年に三代目藩主である幸道（1657 年～727 年）の霊屋として建てられたもので、この霊屋は 1886 年に長国寺の本堂が火災で損傷した後に再建された時、信之の霊屋の北側から現在の場所に移されたのです。

松代の二代目藩主である信政（1597 年～1658 年）の霊屋はかつては信之の霊屋の左にありましたが、現在は林正寺の中にあります。かつて真田幸道の母のために建てられた 5 番目の霊屋は長国寺の後ろにあったのですが、この霊屋は後に孝養寺に移転し、そして 1891 年の火災によって損失してしまいました。

また真田家の墓地も長国寺の中にあり、10 代にわたる真田一族の墓と記念の石があります。この中には、信之の兄である真田幸村（1570 年～1615 年）（真田信繁）と、幸村の息子である幸昌も含まれています。

真田一族に関連する寺院

西楽寺は信之の霊屋と同じように重要な文化財に指定されています。西楽寺は 1574 年に建てられた浄土宗の寺院です。火災により損傷しましたが、1648 年に再建されました。また西楽寺は信之の三男である真田信重の霊屋がある場所でもあります。

林昌寺は 1550 年に建てられた寺院です。林昌寺の本堂は 1660 年に建てられ、信之の次男である、2 代目藩主の真田信政の霊屋として使われていました。

大英寺は 1624 年に、信之の妻の小松姫のために建てられました。大英寺の敷地内には、真田家の霊屋の中で最大かつ最古の霊屋があります。